



棚田彩る炎

たいまつ2000本

水俣市・寒川地区

水俣市久木野の寒川地区で16日夜、田植前の棚田を2000本のたいまつで照らし飾るイベント「棚田のあかり」があった。

棚田を築いた先祖に感謝し、その美しさや水源涵養への理解を広めよう

水俣市久木野の寒川地区であった「棚田のあかり」。約2000本のたいまつが棚田の水面を照らした
16日午後7時10分ごろ

と、市久木野、ふるさとセンター・愛林館（沢畑亨館長）と同地区が毎年開催し、11回目。燃料は食用廃油を利用するなど、環境にも配慮している。

住民やボランティアら約70人が朝から準備し、水が張られた棚田のあぜにたいまつを設置。午後6時ごろ、一斉に点火されると、夕闇の中で揺れる炎が棚田の水面に浮かび上がった。（隅川俊彦）

新生面

熊本日日新聞

2015.5.18

湧き水で流すそうめんを味わおうと、先日、水俣市の寒川水源に初めて出掛けました。そうめん流しを満喫したのはもちろんだが、周辺に広がる棚田の光景が素晴らしいかった▼おととい、その棚田を2千本のたいまつで照らすイベントがあり、本紙に写真が掲載されていた。昼間とは全く違う幻想的な雰囲気、訪れた人たちを魅了したに違いない。棚田を築き守ってきた先人や、維持し続けている地元の人たちに感謝したい▼棚田は万里の長城と同じく人類の大遺産、と言ったのは作家の司馬遼太郎さんだ。山の斜面を削って幾層もの平らな土地にし、土が流れないように石垣を築き、水を一番上から一枚一枚に流す。「築城するほどの土木感覚と作業量の要るしごとだった」と記す（『街道をゆく27』朝日文庫）▼単に米を作るだけではない。雨を蓄えて洪水を防止し、徐々に地下に浸透させることで水資源をかん養する。昆虫や鳥など多様な生態系を維持する場にもなっている▼観光資源としても期待が高い。森林や田園地帯、古い街並みなど、昔からある風景の中を歩く「フットパス」のコースには棚田が組み入れられることが多いようだ。農村の原風景といえるその景観が、見る人の心を癒やすのだろう▼しかし、棚田の維持には多くの労力を要するため、農家の高齢化や後継者不足で耕作放棄されるケースが増えている。水俣市をはじめ全国で保全活動が行われているが、当の集落の努力だけでは難しい。棚田保全の重要性をみんなで共有したい。